

「フ ジャンボ？」(こんにちは)「ハバリ ガーニ？」(元気ですか) 2008年もあっという間に2月、早いですね。ケニアは1月から新年度がスタートします。新しい学年になるわけです。私もやっとこれから本格的に授業を持つことになる楽しみにしていたのですが…残念ながらケニアの2008年のスタートは悲しい出来事がおこってしまいました。年末年始にケニアのことが日本でも少しニュースで流れていたと思うので、今回はケニアで何があったのか少しくわしく書いてみようと思います。

～ 大統領総選挙 ～



ムワイ・キバキさん
キクユ族
PNU 党
(前大統領)

12月27日、ケニアでは5年に一度の大統領総選挙がおこなわれました。立候補者は9名ですがキバキ氏、オディンガ氏のほぼ一騎打ち。ケニアは国民一人一人の直接投票によって大統領を選ぶことができるため、ケニア国民の選挙に対する関心はとても高いです。10月に私が初めて町を訪れたときも、子どもも大人も大統領選の話題で持ちきりでした。「先生、ライラって知ってる?」「ライラがいいよ」とはじめての訪問に関わらず、子どもはそんな話題を私に投げかけていました。(オディンガ氏はルオ族出身で、私の村もルオ族。)

12月27日の投票日は平和に行われました。その後開票が行われたわけですが、48時間以内に結果を発表するという約束の時間になっても開票が終わりません。

開票直後は、オディンガ氏が優勢でした。しかし、途中で残りの選挙区の結果発表が保留され、国民は待たされる状態になりました。



ライラ・オディンガさん
ルオ族
ODA 党

すると、なにか不正なことが行われているのではないかと思い始めた人たちが、暴れ始めたのです。

道路に石を置いて車が走れないようにしたり、車に石を投げたり、家に火をつけたり、お店の物をうばいに入ったりする人たちが出始めました。

12月30日、午後4時半ごろ、開票の続きが発表されました。しかし、前と比べてキバキ氏の票があまりにも多くなっていて、水増ししたのではないかと抗議の声があがりました。選挙管理委員会は開票のじゃまをされないようすぐさま会場を別の場所に移しました。オディンガ氏は、その場で選挙のやり直しを求めるといふ記者会見をしました。そのとき、選挙管理委員の一人が不正を確認したと証言もしました。そうこうしているうちに、別室で開票の続きが発表され、キバキ氏が大統領に再選したと選挙管理委員会が正式に発表しました。そしてすぐに就任式が行われました。

これらの様子は、すべてテレビで放送されていました。そのため、暴動はますますエスカレートしていったのです。

はじめは、オディンガ氏の出身地である西側のキスムという町やナイロビ市内にある貧民街のキベラという町でも暴動が起こりました。(このキベラという町については「ケニア便り3号」に書きましたね。)大統領が変わって少しでも自分達の生活が良くなればと考えていた人たちです。

オディンガ氏はキバキ氏が大統領だということを認めず、キバキ氏は自分が国民に選ばれた大統領だといっているのですから、この混乱はおさまりません。(5年に1度行われるこの総選挙は、大統領、国会議員、地方議会議員が同時に選出されます。

ちなみに国会議員数210名に対し、オディンガ氏のODM党が99席、キバキ氏のPNU党が43席でした。)

店に入って物をうばっている人や火をつけようとしている人を警察官がしずめようと発砲したり、対立する民族をナタで切り殺したりと多くの死者を出すようになりました。

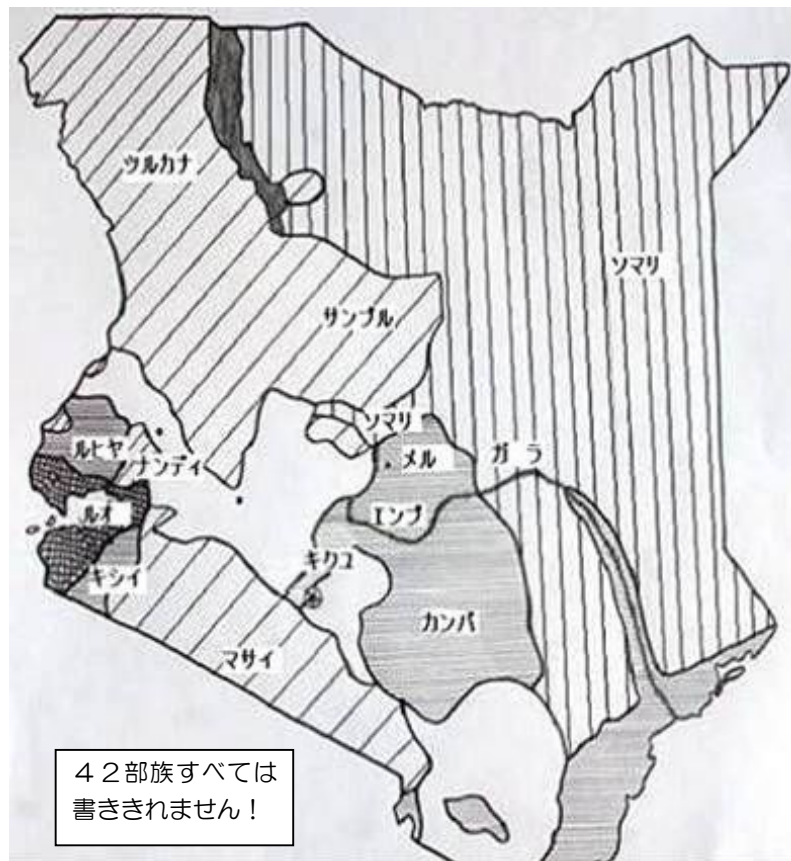
ルオ族やカレンジン族が多く住むキスムやエルドレッドなどの町では、キクユ族を追い出しにかかります。すると、ナクル、ナイバシャなどの町では逆にルオ族などが追い出され始めました。やられたらやり返す、これでは暴動はおさまりません。

こうして仲良く暮らしていたケニア人がばらばらになり始め、ケニア国内で自分の場所へ帰れなくなる国内避難民が出始めました。



みんなと同じ子ども達はどうしているのでしょうか。1月7日から始まる学校も14日に延期、ルオ族の多い私の町に限っては2月に入ってもまだ学校が始まっていない状態でした。キベラのせまい町の中では暴動の様子を見た子ども達がたくさんいるそうです。マゴソスクール（ケニア便り3号）のリリアン先生は子ども達にこう話したそうです。「いろいろこわい思いをしたと思うけど、みんなにとって大切なことは勉強すること。みんなで仲良く、助け合って勉強すること。これまでのことはできるだけ考えないようにして忘れて、毎日楽しんで学校へ行くこと、勉強をすること、それに集中するんだよ。ルオ族もキクユ族もルヒヤ族もカンバ族もドウルマ族もみんな一緒に生きていく兄弟なんだよ」と。

ケニアのこの状態が長引くに連れ、問題はケニア国内だけの問題ではなくなりました。地図を見てわかるように、ケニアにはモンバサという大きな港町があり、そこからケニア国のみならずアフリカの内陸の国へいろいろなものが運ばれるからです。（モンバサから



ウガンダの首都カンパラには鉄道が走っています。）ウガンダなどの隣国では石油の値段が上がったり、物資が届かなくなったりするなど影響が出始めました。

そんな中、他の国は、何もなかったわけではありません。イギリスの首相がキバキ氏、オディンガ氏それぞれと電話で対談したり、南アフリカのデズモンド・ツツ大司教（ノーベル平和賞受賞者）、ガーナ大統領、元タンザニア大統領、元ボツワナ大統領、アメリカの米国務次官補、アナン元国連総長などたくさんの方が仲裁にやってきました。しかし、大きな成果は見られません。アナンさんも短期間で元の状態にもどるのは難しいだろうと言っています（アナンさんが現在も仲裁を継続中）。

～ 民族問題 ～

選挙に不正があったのではないかという疑いだけで、1ヶ月以上も国内の情勢が安定しないということはないと言われています。ケニア便り第1号で紹介したように、ケニアでは政府に認められた部族が42あります。この部族間のいろいろな感情が今回の暴動を長引かせている理由の1つと考えられています。

一番人口の多いキクユ族は本来ケニア中央部に住む農耕民族で働き者だと言われています。人口が増加するにつれお金をはらって他の部族の土地を買って広げていきました。それが今になって（この選挙後暴動にこじつけて？）自分たちの土地からキクユ族は出て行け！という動きがある

ようです。しかし、部族に関係なく成功している人はたくさんいます。これまで言葉や生活習慣に関係なく生活しているケニアは素晴らしいと思っていたのですが…とても悲しい出来事になってしまいました。

～ 貧困問題 ～

暴動が起こる理由にもう一つこの貧困問題があります。このような暴動がケニア中で起こっているわけではありません。ほんの一部の地域にすぎません。それは悲しいことに、仕事のない人たち、貧しい人たちの場所で起こっています。車を持ちショッピングを楽しんでいる人がいる一方で、一日に一食食べられるかどうかという人たちがいるのです。いろいろな問題を抱えているケニアですが、一人一人はみんな良い人たちです。ケニアに一日も早く平和がおとずれますように。

暴動が起こる理由にもう一つこの貧困問題があります。このような暴動がケニア中で起こっているわけではありません。ほんの一部の地域にすぎません。それは悲しいことに、仕事のない人たち、貧しい人たちの場所で

起こっています。車を持ちショッピングを楽しんでいる人がいる一方で、一日に一食食べられるかどうかという人たちがいるのです。いろいろな問題を抱えているケニアですが、一人一人はみんな良い人たちです。ケニアに一日も早く平和がおとずれますように。

《編集後記》4号からずいぶん時間が経ってしまった—5年生のみんなにケニアのこの状況を知ってもらうのは難しいな。話題を変えようかな。でも年末年始のケニアのニュースは少しは流れていたはず。ケニアで何があったのか伝えなければ。みんなにケニアの状況を知ってもらうためにはどのように書いたらいいかな。—そうこうしているうちに西側3州内派遣の協力隊員の帰国が決定。今この便りを実家下関で書いています。

「民族問題」「政治問題」「貧困問題」等はケニアだけの問題？日本にはないのかな？みんなが日本のことや世界のことに目を向けるきっかけになってくれればと思います。すべては「知ること」から始まるのだから！＜鶴田佳代子＞

（人口3,700万人 政府公認部族数42部族）

語族	民族・言語	人口割合
バンツ語系	キクユ	20.78%
	ルヒヤ	14.38%
	カンバ	11.42%
	キシイ	6.15%
	メル	5.07%
	エンブなど	1.20%
ナイロティック語系	ルオ	12.38%
	カレンジンなど	11.46%
ナイロ・ハミティック系	マサイ	1.76%
	ツルカナなど	1.52%
ハミティック系	ソマリなど	0.99%
その他		